

銀行とサラ金の融合は 何をもちたらすか

ジャーナリスト 須田 慎一郎

東京三菱が消費者金融専業大手のアコムを傘下に入れ、三井住友がプロミスと大々的な業務提携を結ぶというように、銀行業界とサラ金業界が今まさに融合しようとしています。このような状況を放置すれば、本来借りなくていい人が借り多重債務被害が広がっていきくんじやないか。そういう状況を細かく説明していきたいと思いま

◇会社員の生活ステージと銀行取引

みずほ銀行では、どのような局面で個人の顧客から収益が上がってきているかをサンプル調査した。顧客に多い「大卒男子、サラリーマン」をモデルに考えてみると、二二、三歳で大学を卒業し、だいたい三五歳で住宅ローンを借りる。その時点では奥さんと子ども二人ですね。五五歳でだいたい定年退職を迎え、退職金で住宅ローンを

完済します。その時点では子どもは学校を卒業し独立している。住宅ローンの支払いが消え、教育費もかからないと可処分所得が増えるようにみえるんですが、定年退職後に再就職した場合、給料は大きく下がる。とはいえ夫婦二人で生活していくにはある程度余裕があるわけで、その余裕資金をもって投資信託や国債を買ってもらおう。こういうビジネスモデルを立てているんですね。

そこから考えてみると、三五歳以前、二二、三歳で預金口座をつくり銀行取引を開始する。給与が振り込まれ、いろんな費用が引き下ろされる。しかし銀行はいっさい儲からない。銀行業界は収益を拡大していくために、この二二、三歳から三五歳までの若年層の顧客と取り引きを拡大し何とか収益を確保したい。

その発想から出てきたのが二、三年前から登場した銀行と消費者金融の共同出資の会社によるサラ金ビジネスでしたが、あまりうまくいかなかった。融資残高が伸びなかったのです。そこで銀行業界は発想を大きく変え、サラ金業界をそのまま自らに取り込もうという動きになってきたのです。

◇マスターカードのCMの含意

それには契機がありました。四月一日から、規制緩和で、銀行本体が発行するクレジットカードに分割払い機能が認められた。銀行業界はここに目をつけたのです。近く大手都銀は、キャッシュカードとクレジットカードを一体的に売り出すでしょう。

最近こんなテレビCMをご覧になった方もいるでしょう。「思い出はお金で買えない。買えるものはマスターカードで」とかいいうCMですが、あるバージョンでは、外国の妖怪やフランケンシュタインが登場する。歯の治療にいくらかの骨折治療にいくらか、検査にいくらか。「医療費がカードで支払えます」というだけではありません。

「いままでできなかった医療費の分割払いがこれからはできるようになる」というメッセージが、このCMの背後には隠れている。銀行は顧客を「分割へ、分割へ」と誘導しつつあるのです。

一括払いと分割払いでは大きく違います。分割払いでは金利が発生するんですね。よく約款をみると小さく書いてある。年利一六％ですよ。非常に便利だという幻想の下に、知らず知らずのうちに一六％がとられていく。

◇共用カードへの切り替え

今まで使っていた銀行のキャッシュカードはすべて「共用カード」に切り替わっていきます。スキミング被害の対策としてICチップを搭載し、手のひらや人差し指で生体認証(本人確認)をしますよという、安全性の高いカードへの切り替えを銀行は勧めています。ICチップは原価四、五〇〇円もするのに無料だいいという。こうしたエサで切り替えさせたカードは、すべてクレジットカードとキャッシュカードが一体化した共用カードです。

大手専業サラ金は、ここに新し

いビジネスを見つけた。銀行が発行するキャッシュカードを保証しよう。東京三菱が発行するカードの審査は、アコムと東京三菱が共同出資した会社「DCキャッシュワン」が審査をし保証料をとる。金情連、サラ金が個人信用情報を蓄積し、いったいこの人はいくつの会社からいくつ借りているのかというホワイト情報、ブラック情報をストックし融資審査に活用している組織ですが、そこに銀行が出資するこの会社が加盟申請をしている。おそらく近々加盟が認められるでしょう。ここで初めて銀行業界がサラ金業界との融合を果たすことになりました。

◇知らないうちにサラ金利用者に

これは第一歩、後ろ向きの意味で銀行業界とサラ金業界の融合の第一歩だと思います。大学を卒業してから住宅ローンを借りるまでの一定期間とにかく消費者金融を貸していこう、借金をさせていく。

東京三菱は共用カードで二〇〇万円まで貸すといっています。普通のサラ金だって一〇〇万円が限界なのに、アコムと東京三菱が一緒に

やったカードでは年利一六％で二〇〇万まで貸してくれる。簡単に借りてしまおう若年層は多いでしょう。でもそうすると一気に多重債務ですよ。

三井住友の道玄坂支店には、もう銀行の店舗のなかにプロミスが入っています。今までだったら申し訳なきように、ATMの脇のほうに「アットローン」とかあったんですが、それが今は銀行の店舗のなかに筆々とサラ金がある。

◇夕刊紙に書けないこと

私は夕刊紙に定期的コラムを書いています。そこに書いちゃいけない業界は二つあるんですね。消費者金融業界と生命保険業界です。なぜか。簡単ですよ。夕刊紙めくってください。消費者金融は大広告主ですね。大手から中小まで、ものすごい広告が載っています。

◇真実を伝えるために

私、ジャーナリストという肩書きを持っていて傍観してるんじゃないんです。伝えたいんですがなかなか伝えられない構造にあるということをぜひご理解いただきたい。銀行のサラ金化がほとんど知られずに進んでいるのは、ジャーナリズムの状況にも大きな原因がある。ですから、こういった(高

金利打破集会のような)運動をしていただいて、もっと問題が日常的に取り上げられるようにしていただきたい。

一九九九年の商工ローン問題のときも、私、『週刊ポスト』で連載やっただけで、何を隠そう、準レギュラーで特集コーナーの担当を今もやっているテレビ番組に約半年の間、出演することが出来なかった。どうしてかと思てテレビをみると、番組冒頭の提供のクレジットに「日栄」と出てくる。なるほど、これがと。気づくのが遅かった(笑)。

それなのにまた、何年かにいっぺんタブーに触れてしまうものですか、なかなか裕福なジャーナリスト生活は送れないんですが、それでも折りに触れて書きしやべっていくたいと思うわけです。ぜひがんばってやっていきましょう。

(二月二六日、東京・全電通会館で開かれた「今こそ高金利社会を打破しよう!対商工ファンド最高裁判決一周年集会」での講演から)